

観光産業

令和5年度



目次

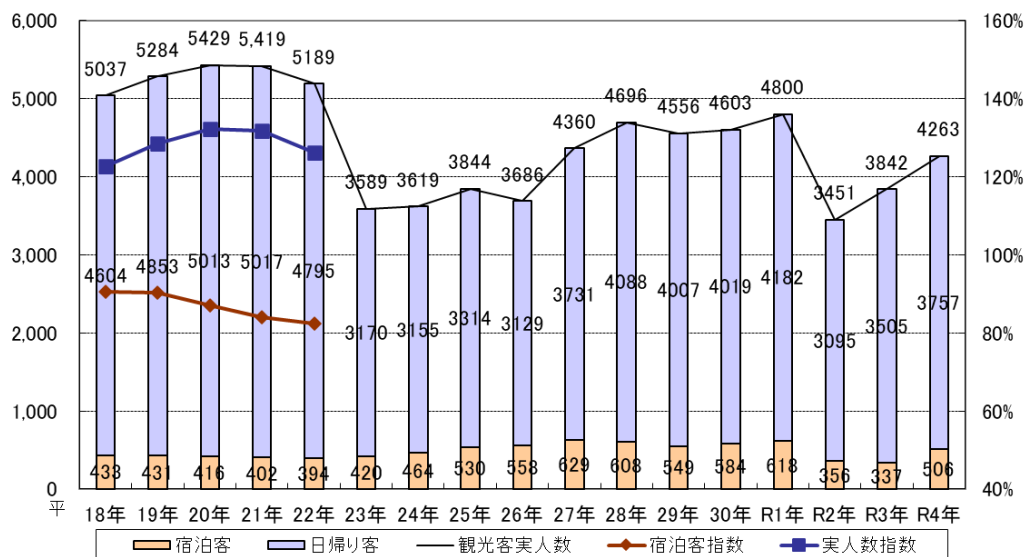
1.岐阜県の観光の動向	2
2.全国から見た岐阜県の観光	11
3.最近の動向と課題	17
主な観光宿泊地の動向	23
4.その他の観光宿泊地の動向	27

(成功事例：熱海市、箱根町)

(1) 観光客の動向

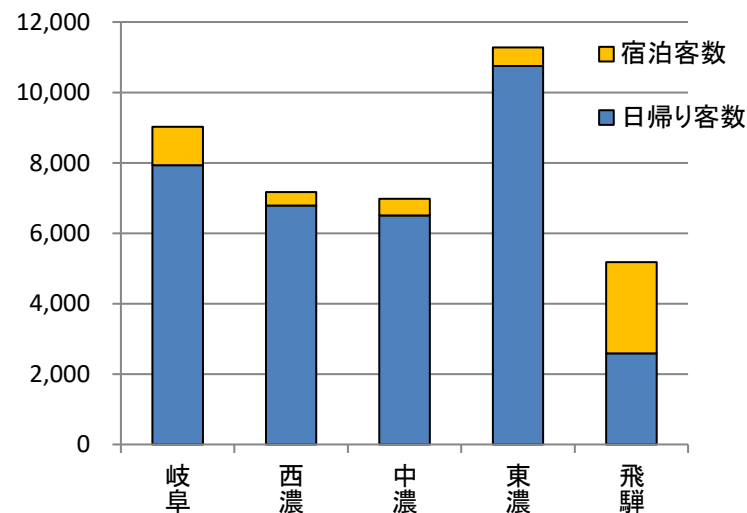
年別観光客の推移実人数（推計）

(万人)



出所：岐阜県観光国際政策課「令和4年岐阜県観光入込客統計調査」から作成
(22年までとは調査手法が異なり比較不可)

圏域別観光客実人数（推計）（単位：千人）

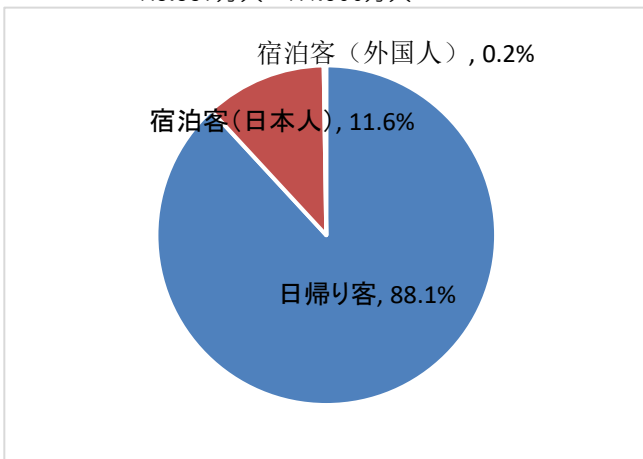


出所：岐阜県観光国際政策課「令和4年岐阜県観光入込客統計調査」から作成

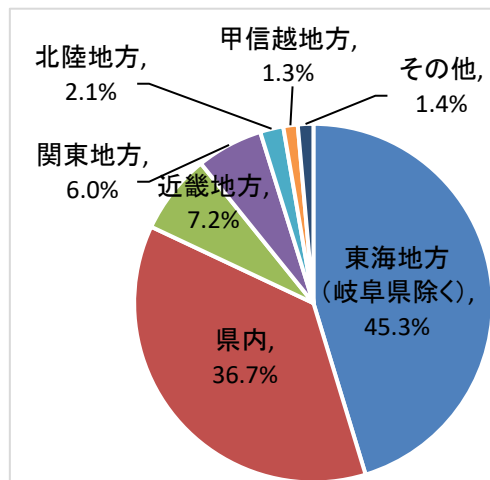
令和4年の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復で、日帰り客数（前年比+7.1%）は増加し、宿泊客数（前年比+50.1%）も大幅に増加、全体では前年比+10.9%増の4,263万人であった。ただし、コロナ禍前の観光客数の水準までには、まだ及んでいない

(2) 観光客の状況

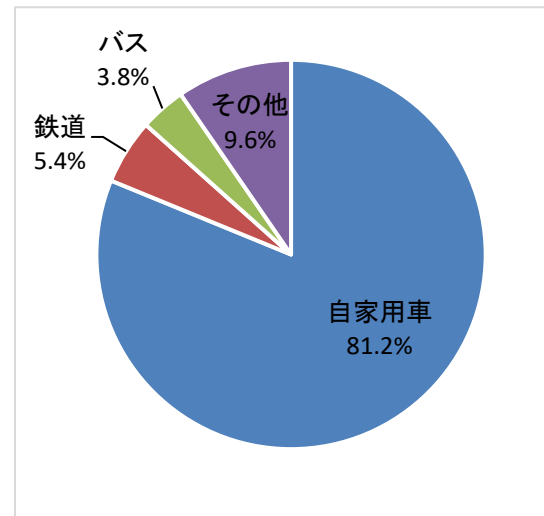
○宿泊客が約5割増
R3:337万人→R4:506万人



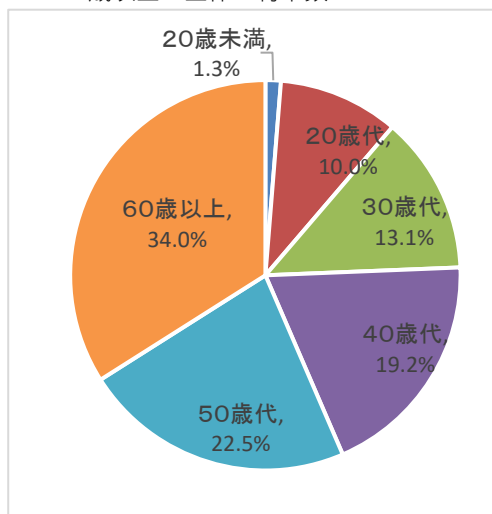
○東海4県からの観光客が8割



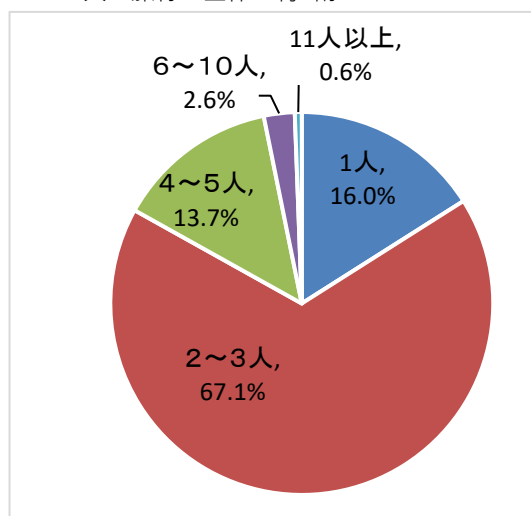
○約8割が自家用車を利用



○シニア層の観光客が多い
50歳以上が全体の約半数

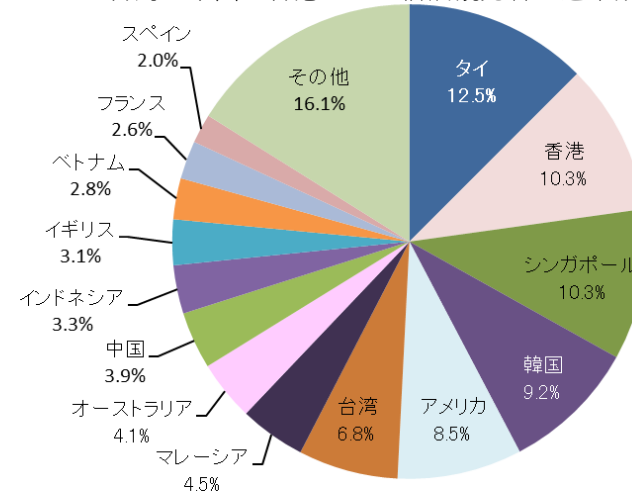


○小グループ旅行が大半
2~5人の旅行が全体の約8割

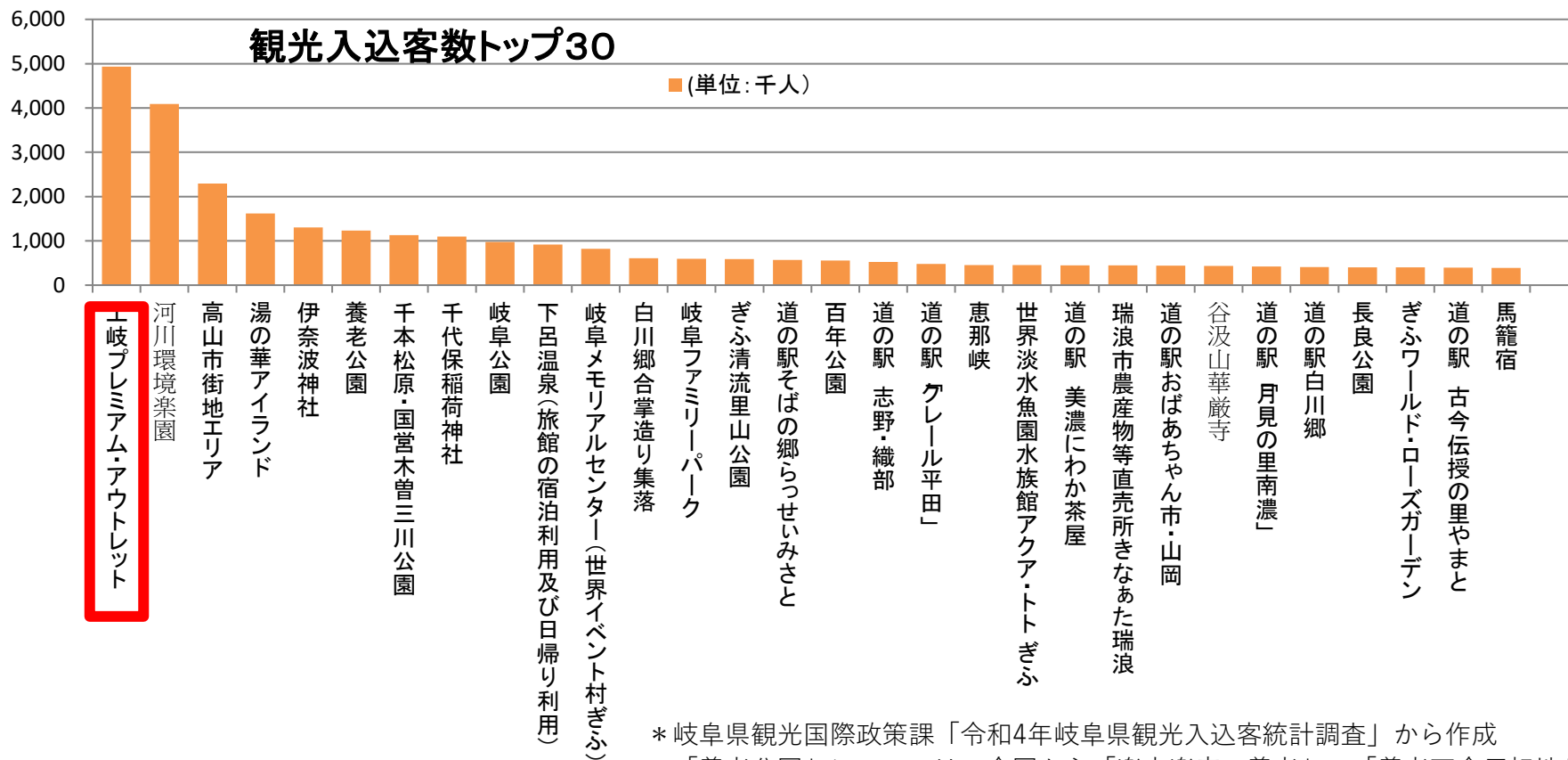


○外国人観光客はアジアが大半

台湾・中国・香港からの宿泊観光客で過半数



(3) 主な観光ポイント



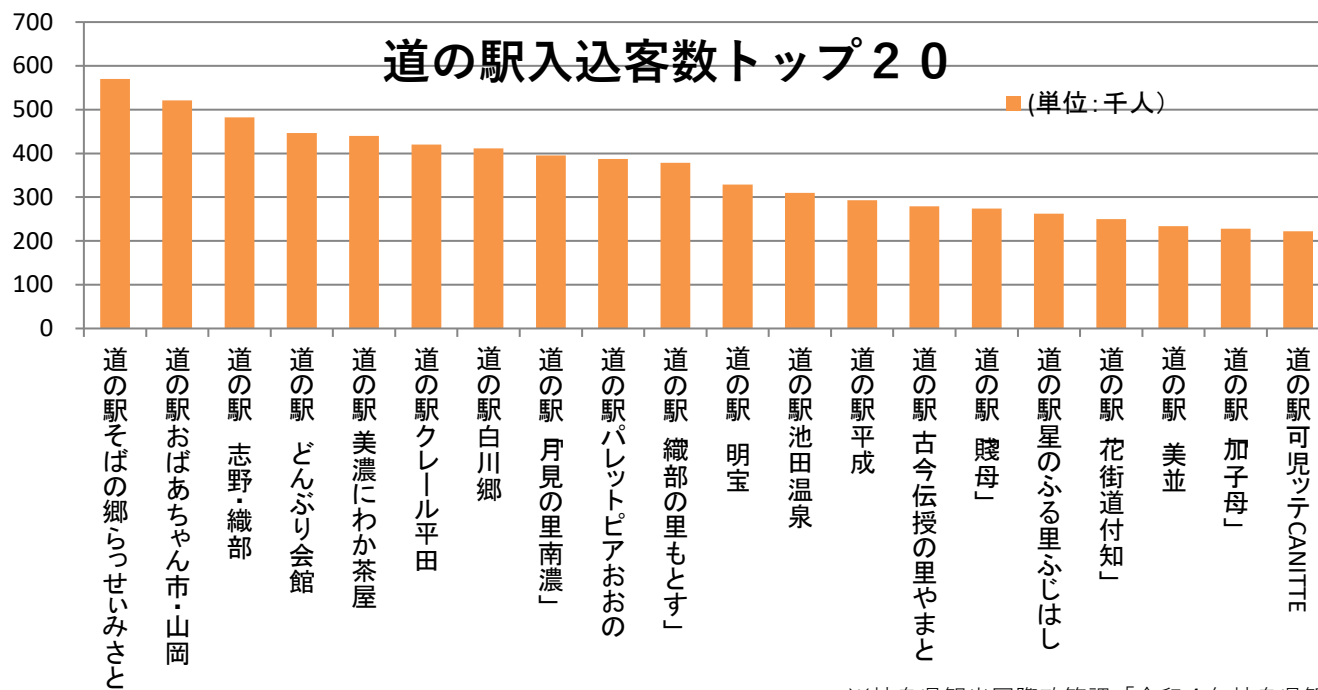
* 岐阜県観光国際政策課「令和4年岐阜県観光入込客統計調査」から作成
 * 「養老公園」については、今回から「楽市楽座・養老」、「養老天命反転地」、「岐阜県こどもの国」の入込客数を含んだ数値を掲載。

□県全体 405 観光地点中 **上位30地点**で約 **5割**の入込客

観光地分類別では、「道の駅等」がトップで全体の26.1%を占める

□土岐プレミアム・アウトレットは、平成17年(2005年3月4日)開業以来、歴代1位

上位30地点中6地点が入る「道の駅」(集客力)



※岐阜県観光国際政策課「令和4年岐阜県観光入込客統計調査」から作成

□道の駅設置数は北海道129駅に次いで**全国第2位**の56駅（全国1,204駅）

※令和5年8月4日現在で、5駅追加され全国1,209駅に。

□道の駅等の集客数は**総入込客数4,263万人のうち22.5%、961万人**

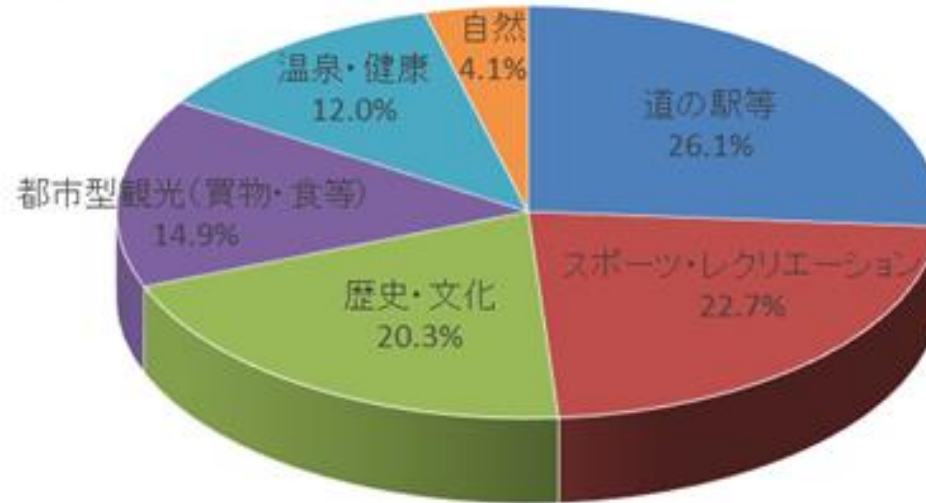
□道の駅は「休憩・情報発信・地域の連携」機能を果たすため、**20年前**に誕生。

一番の魅力は地元の名産品・特産品、食事等の販売。**目的地化**が集客増加の要因。

□設置ピークは平成30年迄で、トップ20の順位は令和元・2・4年(3年欠測)で変化なし。

(4) 観光地点分類別 (6分類)

【令和4年 観光地点分類別(6分類)】



出所：岐阜県「令和4年岐阜県観光入込客統計調査」

□観光地点分類別 (6分類) でみると、

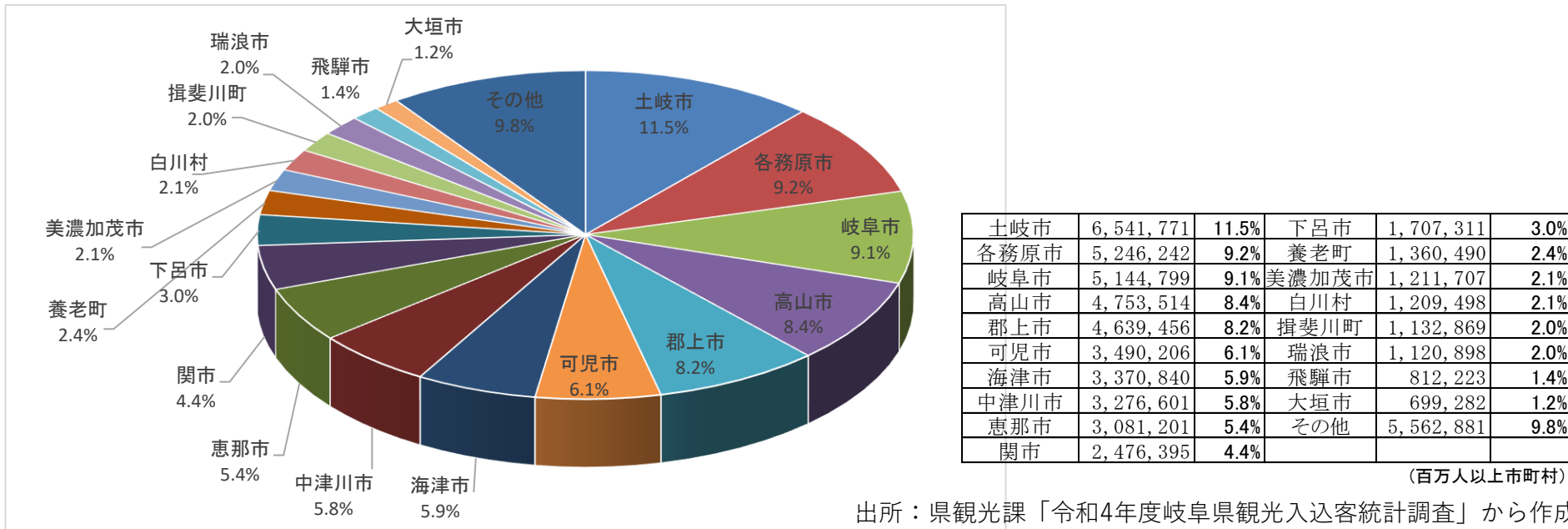
1「道の駅等」26.3%、2「スポーツ・レクリエーション」23.1%、3「歴史・文化」19.8%、4「都市型観光(買物・食等)」15.2%、5「温泉・健康」11.5%、6「自然」4.0%の順で高い

□岐阜県は「道の駅等」が最も高い。(「道の駅等」とは、「他の分類されない観光地点(道の駅、パーキングエリア等)」)

□国は、「道の駅」を地元住民が訪れる地域活性化・地方創生拠点から、海外からの外国人観光客も訪れる「世界ブランドへ」を掲げており、多言語案内サービスや地域ぐるみで外国人を受け入れる施設整備や発信が求められている

(5) 市町村別の観光入込客数

観光入込客数(延べ人数)



- 入込客数100万人以上の市町村は、**特別に集客力が高い観光地**を有している
- 特定の観光地点に特化しているのは、各務原市(**道の駅等**)、岐阜市や郡上市 (**スポーツ・レクリエーション**)、高山市・白川村(**歴史・文化**)、土岐市や中津川 (**都市型観光(買物・食等)**)、下呂市や可児市(**温泉・健康**)、恵那市 (**自然**) など

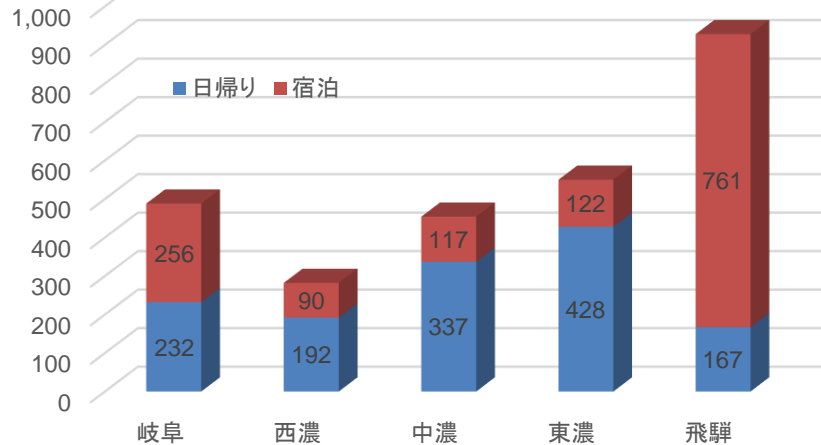
(6) 観光・交流産業における地域経済への貢献

観光消費額（2022年）
県計 1,721億円



波及効果

生産誘発額 3,944億円
就業誘発効果 36千人

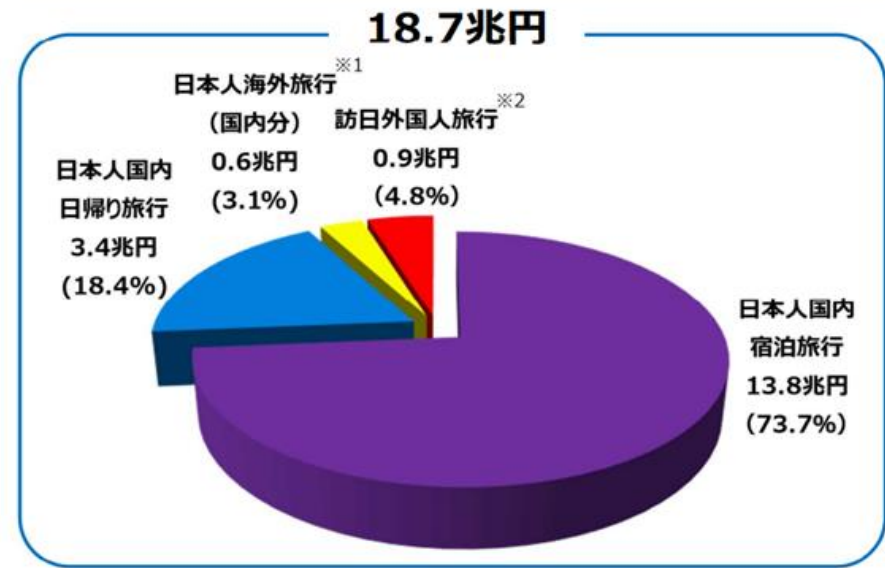


出所：岐阜県観光国際政策課「令和4年岐阜県観光入込客統計調査」から作成

国内における旅行消費額（2022年）

2022年の旅行消費額について

「旅行・観光消費動向調査」2022年（確報）の公表に伴い、日本人海外旅行（国内分）や訪日外国人旅行者による消費額を含めた2022年の日本国内での旅行消費額を併せて公表します。



※1 「日本人海外旅行（国内分）」は、新型コロナウイルス感染症の影響により試算値
 ※2 「訪日外国人旅行」は、新型コロナウイルス感染症の影響により試算値

出所：観光庁統計情報「経済波及効果」

□岐阜県における生産誘発額は3,944億円、就業誘発効果は3.6万人

□観光・交流産業は裾野が広く、特に中山間地域にとっては地域を支える主要産業

(7) 岐阜県の観光消費額

観光消費額と総生産との対比

(単位：億円、%)

圏域	観光消費額 (A)	市町村内総生産 (B)	A/B
岐阜圏域	488	30,153	1.6%
西濃圏域	282	14,509	1.9%
中濃圏域	454	14,587	3.1%
東濃圏域	550	11,657	4.7%
飛騨圏域	928	5,724	16.2%
県計	2,702	76,630	3.5%

出所：岐阜県観光国際政策課「令和4年県観光入込客統計調査」

岐阜県統計課「令和2年度市町村民経済計算」から作成

1人当たり観光消費額 (前年比、令和2年と比較)

(単位：円、%)

圏域	日帰り	R2と対比	宿泊	R2と対比	合計	R2と対比
岐阜圏域	2,921	123.7%	23,627	94.7%	5,411	102.7%
西濃圏域	2,833	118.4%	23,389	127.5%	3,936	128.9%
中濃圏域	3,548	122.6%	24,945	112.2%	4,553	125.6%
東濃圏域	3,982	113.0%	22,865	125.9%	4,877	120.4%
飛騨圏域	6,458	107.0%	29,384	119.7%	17,918	119.8%
県計	3,611	117.5%	26,594	113.7%	6,340	122.6%

※四捨五入のため構成比の合計が100%にならない場合がある。

出所：岐阜県観光国際政策課「令和4年県観光入込客統計調査」

※『出所：岐阜県観光国際政策課「岐阜県観光入込客統計調査」』は、新型コロナウイルス感染症の影響で、「1人当たり観光消費額」の令和3年の圏域別が欠測であるため、令和2年と比較する。

(コロナ禍は令和2～4年に当たり、令和5年5月8日に「新型インフルエンザ等感染症 (いわゆる2類相当)」から「5類感染症」へ移行した。

□ 1人当たり観光消費額は、「日帰り」は「宿泊」の13.6%

□ 1人当たりの消費額の合計は、「日帰り」と「宿泊」とともに増加した。ただし、「宿泊」の岐阜圏域で減少した

2.全国から見た岐阜県の 観光



(1) 延べ宿泊数、観光目的の宿泊者の割合

□令和4年「延べ宿泊数」は、全国4億5,045万8,460人、うち観光目的は2億2,258万8,890人で、「観光目的の宿泊者」の割合は50.1%、岐阜県の「延べ宿泊者数」は548万9,670人で全国26位、うち観光目的は363万6,380人で66.2%、全国8位

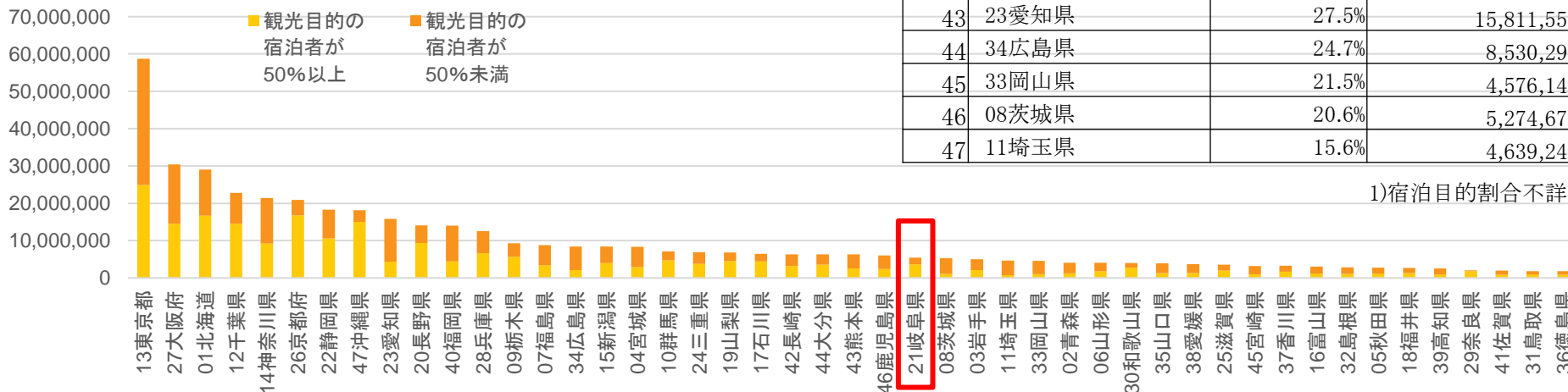
→岐阜県は観光目的の割合が高い

観光目的の宿泊者の割合

	施設所在地(47区分及び運輸局等)	観光目的の宿泊者の割合	延べ宿泊者数 ¹⁾	
				順位
1	29奈良県	88.5%	2,071,520	44
2	47沖縄県	82.6%	18,232,940	8
3	26京都府	79.5%	21,110,420	6
4	30和歌山県	68.0%	4,028,270	33
5	17石川県	67.2%	6,551,460	21
6	10群馬県	66.7%	7,098,620	18
7	20長野県	66.3%	14,172,210	10
8	21岐阜県	66.2%	5,489,670	26
9	19山梨県	65.5%	6,867,120	20
10	12千葉県	63.6%	22,800,170	4
28	13東京都	42.1%	59,036,970	1
29	14神奈川県	41.7%	22,090,800	5
43	23愛知県	27.5%	15,811,550	9
44	34広島県	24.7%	8,530,290	15
45	33岡山県	21.5%	4,576,140	30
46	08茨城県	20.6%	5,274,670	27
47	11埼玉県	15.6%	4,639,240	29

1)宿泊目的割合不詳を含む。

全国の延べ宿泊数



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(令和4年)から作成

※「観光目的割合」は、「観光目的の宿泊者が50%以上」である施設における延べ宿泊者数の全体に占める割合

(2) 宿泊者お迎え指数(県民1人当たり延べ宿泊者数)

順位		指数 (%)	延べ宿泊者数 (万人泊)	順位	2020年 国調人口	順位		指数 (%)	延べ宿泊者数 (万人泊)	順位	2020年 国調人口
-	全国	357	45,046	-	12,615	34	秋田県	289	277	41	96
1	沖縄県	1,242	1,823	8	147	35	愛媛県	282	376	35	133
2	山梨県	848	687	20	81	36	岐阜県	277	549	26	198
3	京都府	819	2,111	6	258	37	福岡県	273	1,399	11	514
4	長野県	692	1,417	10	205	38	徳島県	256	184	47	72
5	石川県	578	655	21	113	39	滋賀県	252	356	36	141
6	大分県	561	630	23	112	40	佐賀県	246	199	45	81
7	北海道	558	2,917	3	522	41	岡山県	242	458	30	189
8	静岡県	504	1,831	7	363	42	神奈川県	239	2,209	5	924
9	長崎県	483	634	22	131	43	兵庫県	231	1,263	12	547
10	栃木県	482	932	13	193	44	愛知県	210	1,581	9	754
11	福島県	480	879	11	183	45	茨城県	184	527	27	287
12	福島県	437	879	14	183	46	奈良県	156	207	44	132
13	和歌山県	428	403	33	92	47	埼玉県	63	464	29	734

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」（2022年）、総務省「国勢調査」（2020年）から作成

□近隣では、長野4位、石川5位、静岡8位、福井25位、富山32位、愛知44位、岐阜県(36位)と、愛知県を除いた全ての地域で岐阜県より上位

－ 地域観光資源ポテンシャルの発揮に期待 －

□地域プラン度調査2023 都道府県魅力度ランキング（ブランド総合研究所「地域ブランド調査2023」）でも岐阜県39位、訪日外国人は16位の人気

(3) 外国人宿泊客の動向

■国別外国人延べ宿泊者数

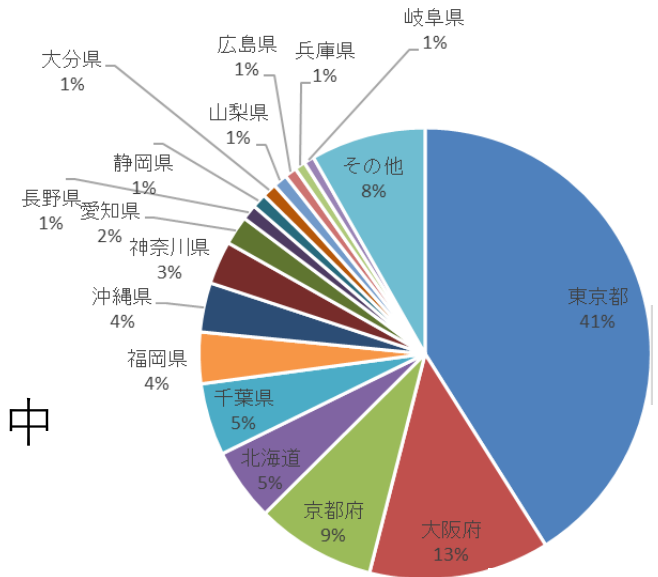
(単位:千人)

	合計	タイ	シンガポール	香港	韓国	米国	台湾	オーストラリア	マレーシア	インドネシア	中国	ベトナム	英・独・仏	スペイン	その他
全国	13,608	628	754	880	1,966	1,994	905	378	256	284	992	286	706	78	2,619
		4.6%	5.5%	6.5%	14.4%	14.7%	6.7%	2.8%	1.9%	2.1%	7.3%	2.1%	5.2%	0.6%	19.2%
岐阜県	66	8	6	6	6	5	4	3	3	2	2	2	11	1	9
		12.1%	9.1%	9.1%	9.1%	7.6%	6.1%	4.5%	4.5%	3.0%	3.0%	3.0%	16.7%	1.5%	13.6%

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(2022年)から作成(従業者10人以上の施設)(国籍不詳を含む。)

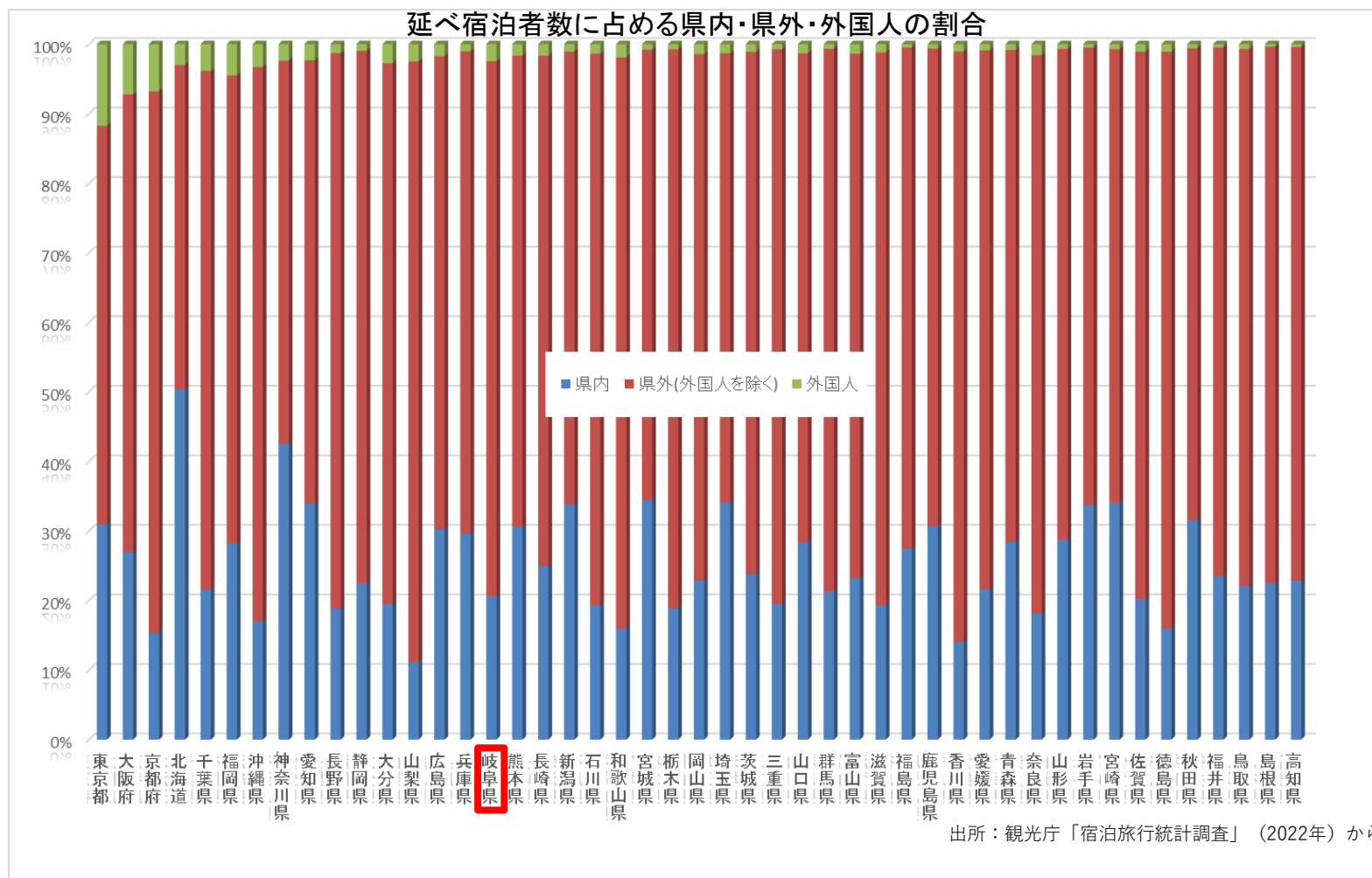
- ・ 渡航制限明けの令和4年11月速報で、岐阜県は、前年比34.9倍、**全国2位の伸び率**を記録した(R3 0.12万人→R4 4.05万人)
- ・ 岐阜県が取り組む観光対策「**飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト**」を平成21年から実施、**知事のトップセールス**で実績を伸ばした(タイ、シンガポール、香港、英国、欧州 他)

■外国人延宿泊者の状況



- 東京、大阪、京都などの「ゴールデンルート」に集中
- 東アジアや東南アジアからの旅行者が多い
- 岐阜県の延べ宿泊者数は、**中国が激減**している
(岐阜県の割合 R元年 41.1%→R4年 3.0%)
一方、**タイや韓国、欧州の割合が増えている**

(4) 外国人宿泊客の割合



- 関東、近畿などに比べ東海地方の外国人宿泊客の割合は比較的低い
- 岐阜県は16位（延べ宿泊者数に占める比率）で、全国の上位に位置

(5) 全国の旅行消費額の推移

旅行消費額の推移 (2012～2022年)

(単位:兆円)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
日本人国内 宿泊旅行	15.0	15.4	13.9	15.8	16.0	16.1	15.8	17.2	7.8	7.0	13.8
日本人国内 日帰り旅行	4.4	4.8	4.5	4.6	4.9	5.0	4.7	4.8	2.2	2.2	3.4
日本人海外旅行 (国内分)	1.3	1.2	1.1	1.0	1.1	1.2	1.1	1.2	0.3※1	0.1※1	0.6※1
訪日外国人旅行	1.1	1.4	2.0	3.5	3.7	4.4	4.5	4.8	0.7※2	0.1※2	0.9※2
合計	21.8	22.8	21.6	24.8	25.8	26.7	26.1	27.9	11.0	9.4	18.7

※1 「日本人海外旅行 (国内分)」は、新型コロナウイルス感染症の影響により試算値

※2 「訪日外国人旅行」は、新型コロナウイルス感染症の影響により試算値

出所：観光庁統計情報「経済波及効果」

- 訪日外国人旅行が年々増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響で激減。東京オリンピック開催もコロナ禍の渡航制限中で想定より振るわず
- ようやく国内の日帰り・宿泊ともに、コロナ前の2019年の水準に戻りつつある
- 今後のウィズコロナでは、インバウンド需要の回復が喫緊の課題である

3.最近の動向と課題

(1) 世界が認める岐阜県の観光資源

- ユネスコ世界文化遺産
 - ①白川郷合掌造り集落（1995年12月9日登録）
- ユネスコ無形文化遺産
 - ②本美濃紙（2014年11月16日登録）
 - ③山・鉾・屋台行事<高山祭の屋台行事>（2016年12月1日登録）
 - ④山・鉾・屋台行事<古川祭の起し太鼓・屋台行事>（2016年12月1日登録）
 - ⑤山・鉾・屋台行事<大垣祭のやま（車偏に山）行事>（2016年12月1日登録）
 - ⑥風流踊<郡上踊・寒水の掛踊>（2022年11月30日登録）
- 国際連合食糧農業機関（FAO）による世界農業遺産（GIAHS）
 - ※日本15地域が認定（令和5年7月に2つ追加）
 - ⑦2015年12月に「岐阜県長良川上中流域」が認定
長良川（里川）システムによる「清流長良川の鮎」
- ICID世界かんがい施設遺産
 - ⑧曾代用水（2015年10月13日登録）

「NEXT GIFU HERITAGE ～岐阜未来遺産～」

- 岐阜県における持続可能な観光を牽引する「NEXT GIFU HERITAGE ～岐阜未来遺産～」 2つの認定プログラムを発表! (2023.6.12)

出典：@Press 岐阜県広報課

【認定プログラムの概要】

1. 「飛騨小坂～自然のめぐみを体験、滝めぐり、湯めぐり～」

清流の国ぎふの豊かな滝や温泉を体験できるプログラム

<認定ポイント>

- ・自然保護など地域を守る姿勢や、資源としての完成度が高い
- ・「岐阜の宝もの」認定以降の努力や、関係者の熱意は評価に値する
- ・下呂市の持続可能な観光の取組全体のイメージ形成に極めて重要な存在であり、下呂温泉との連携による今後の誘客拡大が期待できる

2. 「恵那岩村の山城・城下町と農村景観めぐり」

八百年余年の歴史を持つ三万石の城下町周辺地域の文化や歴史を体験できるプログラム

<認定ポイント>

- ・城跡と城下町が美しく、古き良き日本の姿を楽しめる観光地として秀逸
- ・里山も含めて「日本の田舎の風景」として、外国人にもアピールできる
- ・地域の人たちが暮らしの中で、きちんと街並みを保存してきた努力は高く評価できる

(3) 岐阜県とサステナブルツーリズム

- 岐阜県は全国に先駆けて「持続可能性」に着目した施策を推進してきた
- 2007年から「岐阜の宝もの認定プロジェクト」
- 2009年からは、「飛騨・美濃じまん国際戦略プロジェクト」をスタートした。世界を意識した戦略で、「観光・食・モノ」の三位一体のプロモーションとそのためブランディングに力を入れた
- 特に、岐阜県には、ユネスコ世界文化遺産、ユネスコ無形文化遺産、国際連合食糧農業機関（FAO）による世界農業遺産など世界に認められた観光資源が数多くある

出典：奈良県観光局（2023.3）国連世界観光機構駐日事務所HPより

(4) 観光産業の育成

□ 観光産業の裾野は広く、国内のみならずインバウンドを含めると、発展の余地は大きい

- ・ 旅行ニーズの多様化 「団体・物見遊山型」から「**個人・体験・交流型**」へ
→ 「自然とのふれあい」、「産業観光」、「歴史や伝統にふれる文化観光」、「温泉等を活用したヘルスツーリズム」、「農家民宿や農業体験」

□ 観光客に魅力ある地域」づくり = **地域経済のリーダー**

→ 基本は、地域が地元の観光資源を再認識して商品化する「着地型観光」
住民が地域の素材の再発見を通じて、「**自信**」「**誇り**」を再認識する契機

- ・ 「白川郷合掌造り集落」、「本美濃紙」、「山・鉾・屋台行事」、「清流長良川の鮎」などの世界遺産を観光に活用
- ・ 「関ヶ原古戦場」や「杉原千畝」の「人道の丘公園」を核とした広域観光の推進、「かかみがはら航空宇宙科学博物館」など

「誘致活動」とともに「観光産業の強化」が両輪

主な観光宿泊 地の動向 （「地域」）

【岐阜県内 観光地例】

岐阜地域：長良川鶉飼・温泉、岐阜城、伊奈波神社、薄墨桜
河川環境楽園、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館

西濃地域：千代保稲荷神社、奥の細道むすびの地記念館
岐阜関ヶ原古戦場記念館、養老公園、海津温泉
南宮大社、谷汲山華厳寺、池田温泉

中濃地域：関善光寺、岐阜関刃物会館、うだつの上がる町並み
百年公園、美濃和紙の里会館、モネの池
中山道太田宿、高鷲・鷲ヶ岳・めいほうスキー場

東濃地域：多治見市モザイクタイルミュージアム、鬼岩公園
土岐プレミアム・アウトレット、馬籠宿、付知峡倉屋温泉
苗木城跡、日本大正村、岐阜中津川ちこり村

飛騨地域南部：下呂温泉、金山巨石群、馬瀬川鮎釣り

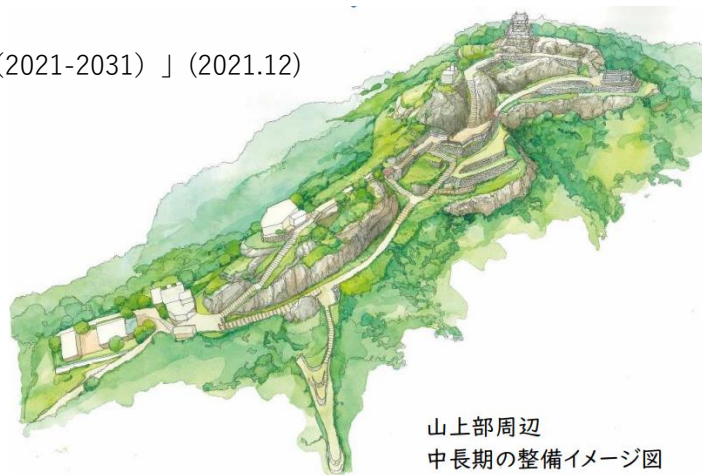
飛騨地域北部：高山市街地エリア、奥飛騨温泉郷、スキー場
飛騨古川の古い町並み、白川郷合掌造り集落

☆道の駅(全国2位の56駅)

【長良川温泉】 “にぎわい創出”のまちづくり

岐阜城の整備後の予想図

出所：岐阜市「史跡岐阜城跡整備基本計画（2021-2031）」（2021.12）



- 金華山「史跡岐阜城跡整備基本計画(2021-2031)」で山上の城郭の整備開始
- 2022年、3年ぶりの「道三・信長まつり」と「日本プリンアワード」を開催

信長まつり（2022年11月開催、「令和4年度 岐阜市産業・農業祭 ～ぎふ信長まつり～」）

2日目の騎馬武者行列に俳優の木村拓哉氏、岐阜市出身の伊藤英明氏が出演。
62万人来場（岐阜市役所は1日目16万人、2日目に過去最多46万人と発表）
経済効果は推定150億円（関西大の宮本勝浩名誉教授（理論経済学）試算）

- 2023年には、柳ヶ瀬地区の再開発ビルと金公園完成し、柳ヶ瀬商店街活性化、
「ぎふ長良川花火大会」4年ぶりの開催、伊奈波神社「裏参道モール」誕生
- 総務省の家計調査で喫茶代支出額が3年連続日本1位、要因は「モーニング」
岐阜市は「気前よすぎるモーニング」が評判の人気店もあるほど日常的

【下呂市】 下呂温泉の先進的な取組事例

- 下呂市と「下呂温泉」の一般社団法人下呂温泉観光協会（瀧康洋会長）は、持続可能な取り組みを続けているとして、オーストラリアに本部を置く国際認証機関「アースチェック」から「世界の先進的な地域」に認定された。認定は2023年2月で、地域社会全体の環境の健全性や持続可能な取り組みが先進的地域として評価された
- 日本国内での認定は初めて
- 1987年設立のオーストラリアの国際認証機関「アースチェック」認定は、「グローバルサステナブルツーリズム協議会（GSTC）」が認定する第三者認証機関の中でも歴史ある団体である。持続可能性に関する取り組みの成果と向上を目指すもので、「リーディング・ディスティネーションズ・オブ・ザ・ワールド・プログラム」の参加を認定する
- 2023年1月にオーストラリアからスタッフが訪れて調査。データに基づく分析・意思決定や環境保全など、一般社団法人下呂温泉観光協会が主体となって取り組む、エコツーリズムとDMO(データマーケティング)を融合した「E-DMO」の取り組みや温泉の集中管理、地域事業者のサステナビリティに対する意識の共有などが評価された

【郡上市】郡上踊りのユネスコ登録と今後の課題

- 郡上踊りがユネスコ無形文化遺産登録へ2022年11月30日 ⇒ メディア露出増加
 - ・中部縦貫道延伸の令和8年春全面開通を見据えて、富山県でもPRを行う
 - 道の駅「荒島の郷」で、「郡上おどり白鳥おどり in 越前おおの」（地元の大野踊り保存会「大野音頭」もコラボ参加）開催
 - ・コロナ禍も30日のうち9日間をオンラインで開催した
 - ・2023年の来場者はのべ30万900人、最終日の「おどり納め」は例年より1万人多い、3万500人ほどが参加した
 - ・例年、地名の由来でもある東京都港区の青山と、京都駅、金沢駅でも郡上踊りイベントを行っている



- しかし、旅館やホテルは、人手不足により、客室を8割で営業している
- お囃子の舞台「踊り屋形」の収納庫からの牽引に、人手の確保が必要となる
- DMO郡上を活用して、自然を活用したアクティビティと、その他の観光資源の発掘と共にも、郡上での滞在を増やしてもらおうプロモーションをしていきたい

4. その他の観光宿泊地の動向 (成功事例：熱海市、箱根町)

熱海市の成功事例

宿泊者V字回復の要因 ※東京から1時間圏内

①観光資源の再発見と魅力強化

2007～2010年の熱海梅園とあたま桜の大規模改修。熱海に縁のある大塚商会の名誉会長 大塚実氏の支援で実現した。1990年には姉妹都市のポルトガル共和国カスカイス市から100本のジャカランダを植樹し遊歩道が整備された。1999年に熱海三大別荘の一つ、起雲閣を、2004年にドイツ人建築家ブルーノ・タウトが建築した実業家の別荘を、市が取得し、文化財とした。

②PR戦略

2012年からのロケ隊誘致策「ADさんいらっしゃい！」では、市職員が全面的に協力した。どんな要望にも応えることで、メディア露出が格段に増えた。

③プロモーションツール（写真等）の統一化

2013年から「意外と熱海」をコンセプトに、地元の人々の再発見からお勧めする「意外とココいいんですよ」を市民全員で、来訪者の満足度を上げる取り組みをし、再来訪（リピート）に繋げている。最近では、昭和レトロブームもあり、かつての町並みも見直されている。また、観光協会では、花火大会の開催を増やして、イベントによる集客効果を狙っている。商工会議所では、食のプロジェクトで特産品や加工製品など、観光ブランド化に力を入れている。

箱根町の成功事例

• 2018年4月に**箱根DMO**が設立

楽天(株)、(株)リクルートライススタイル、(株)JTBの専門家と観光協会職員で発足し、より強固な官民一体の構造で「観光地・箱根」の拡大・発展を目指している。「観光地そのものを経営する」という視点のもと、リサーチやマーケティング、広報・宣伝、海外営業（インバウンド）などの新規業務も行っている。特に、インバウンド向けの旅行マップや観光資源の魅力を伝えるガイド育成制度が充実

• **サステイナブルツーリズム**

グリーン・デスティネーションズ(GSCT)が実施する表彰制度(8回目)にエントリーし、2022年に世界の持続可能な観光地TOP100選に選出された。箱根町では、町や観光協会による観光資源の魅力を伝えるガイド育成や、町社会福祉協議会と共同した車いす利用者向け旅行マップ作成などの取り組みが評価

• **東京から近い温泉地** (電車、車) のかかる時間の違い

1位熱海温泉(45分、110分)、2位湯河原温泉(60分、80分)、**3位箱根温泉(85分、85分)**

車でも電車でも、東京から近い観光地であることが最大の利点となっている

※関東で人気温泉地(電車)は、1位那須温泉(2時間15分)、2位草津温泉(3時間)、3位鬼怒川温泉(2時間)、

4位箱根湯本温泉(1時間25分)「楽天トラベル2022年関東の人気温泉地ランキング (2023.1)」HPより

(※GSTCでは下呂温泉も同年に選出、リニア等が開通すると東京～下呂市の下呂温泉が2時間圏内になる)